

人はみな、  
人生がされて  
生きてゆく

発行 名張保護司会  
〒518-0718  
名張市丸之内79 総合福祉センターふれあい内  
☎637-5775 FAX 64-3349

# 名張保護司会便り

No.25

第65回社会を明るくする運動 作文コンテスト

## 名張市より 連続入賞



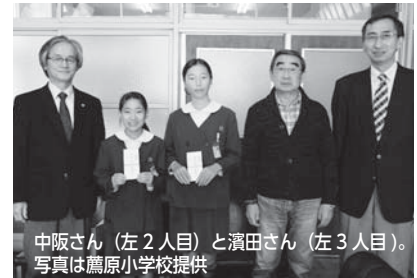
中内保護司会長から表彰を受ける浅田さん

「社会を明るくする運動」は、全ての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築いていこうとする運動です。今年度で65回を数えています。「作文コンテスト」は、次代を担う小中学生に日常の家庭生活や学校生活での体験を通して、犯罪や非行に関して考えたこと、感じたことを作文にし、この運動に対する理解を深めてもらう

ことを目的に実施。今回で23回目となります。三重県下の小中学生合わせて約1万3千点もの応募があり、その中から14点の入賞作品が選ばれています。名張市から昨年度に引き続き入賞者を出したことをうれしく思います。三重県教育委員会教育長賞を受賞した浅田さんは、「犯罪を減らしていくために」「友達、家族、地域のつながりのなかに思いやりの連鎖を広げていくこと」の大切さ

を綴っています(作品は右下に掲載)。名張保護司会では、応募作品の中から、それぞれ市内の入賞作品として賞を選びました。中阪さん「社会のつながり」、濱田さん「言だけ大切なあいさつ」、楠見さん「社会を明るくする運動。作文を通して、若者の視点で犯罪や非行のない明るい社会を希求する力強さを感じることができました。たくさんのお応募ありがとうございました。

- ◎三重県教育委員会教育長賞(名張市保護司会会長賞)
  - ★浅田 健登さん (南中学校 3年)
- ◎名張市更生保護女性会会長賞
  - ★中阪 紀里さん (薦原小学校 6年)
- ◎名張市作文コンテスト審査委員会賞
  - ★濱田 雛代さん (薦原小学校 6年)
- ◎名張市BBS会会長賞
  - ★楠見 幸見さん (北中学校 2年)



中阪さん(左2人目)と濱田さん(左3人目)。写真は薦原小学校提供

## 保護司の仕事

犯罪や非行をした人でも、何らかの処分を受けた後は、地域社会に戻り、社会の一員として生きていくことになります。このような人たちを国と地域が連携して適切に処遇することによって、再犯を防ぎ立ち直りを助けることを目的とした活動を「更生保護」といい、これらの手助けを行うのが法務大臣から委嘱を受けた保護司です。

「更生保護」は地域社会で行われることから、犯罪や非行をした人を取り巻く環境を良く知る人たちの手助けが必要となります。地域の事情に詳しい経験が豊富な人たちが保護司となって、日常的に「更生保護」を必要とする人たち

に生活上の助言や就労の援助などを行い、再犯を防ぎ立ち直りを手助けします。また、保護司会は、犯罪や非行を未然に防ぐために、非行防止教室や犯罪予防活動などの「社会を明るくする運動」を展開するなどして啓発にも努めています。

なお、保護司が行う諸活動の拠点として、名張市内に「更生保護サポートセンター」の設立計画が進められています。保護司の仕事に興味のある人はお気軽に、名張保護司会事務局へお問い合わせください。また、公式ホームページ「三重の更生保護」もご覧ください。



## 犯罪を減らしていくために

浅田 健登

犯罪などのニュースを一日にどれくらいテレビや新聞などで見たり聞いたりするだろうか。一日のニュースで犯罪について、見なかったり言わなかった日はあるだろうか。僕が覚えている中では、そんな日は一度もない。

ただ、月日がたつにつれて視聴者の記憶から忘れられていく。僕らの傾向が大きな問題だと思う。毎日、いろいろなことが起きるから、ニュースの内容も変わっていくのは仕方がない。僕自身もそのニュースを伝えることだけでは未然に防げると思わない。「こんなことがありました」と終わるのではなく、「このことから、どのように考えていかなければいけないのか」と言つたように、それらのニュースに対する意見を各人が考えることで、自分自身の犯罪に対する考えを持つことができ、それが犯罪を未然に防ぐことにつながっていくと思う。テレビや新聞などから得たニュースについて考えるほか、人とコミュニケーションを取ることも犯罪などを防ぐためには必要なことだと思う。僕自身も友達との存在はとても

大きいし、親など大人の存在もかなり大きな存在になっている。一緒に共感できる人、相談できる人がいるということ、自分が人ではないと思える。この人とのつながりも犯罪を防ぐことにつながっていくと思う。そのうえ地域でもコミュニケーションを取り合える環境を作る社会としていくことが必要だと思う。地域で活動することによって、家族や友達以外の人と話す機会ができて、その中でコミュニケーションを経験することで人とのつながりを学ぶことができ、また、そのような環境を作っていくことも大切だと思う。「人は人では生きていけない」から友達や家族、地域のつながりを大切にしないといけないと思う。例えば、自分が手伝ってもらったなら今度は自分が誰かを手伝おうという思いやりの連鎖がながっていくことで誰かのためになるといふ気持ちを生み、自分自身は人ではなく、周りには誰かがいるということを感じさせてくれるのだと思う。そのような人が人でも多く増えることで、思いやりの連鎖を広げていき、犯罪を減らしていくのではないかなと思う。僕も思いやりの連鎖をつなげていくように、人とのつながりを大切にしていきたい。(一部省略)

## 愛の資金

総額 1,549,976円

(平成28年2月末日現在)

社会を明るくする運動事業	632,778円
保護司会活動費用事業	197,198円
更生保護女性会活動事業	120,000円
名張BBS会事業	50,000円
更生保護大会	300,000円
県更生保護事業助成	250,000円

第65回社会を明るくする運動募金は、皆様のご理解とご協力により大きな成果を上げることができました。募金は次の事業に活用させていただきました。愛の資金は各地区を通じて市内の全世帯に呼び掛けご協力をいただいております。ご協力いただいた皆さんに厚くお礼を申し上げます。